

棚田は、農業生産活動を通じ多面的な機能を発揮してきましたが、担い手の減少や高齢化の進行、厳しい地形条件などから、その維持が困難になりつつあります。そこで、将来にわたり棚田を保全していくため、地域外住民も交えた継続的な棚田保全活動を推進しています。

1. 棚田について

棚田とは、斜面を利用した階段状の水田のことを言います。「傾斜が1/20以上の水田が地域の1/2以上を占める地域」を棚田地域として定義しており、県内にはこの棚田地域が約2200ha(県内水田面積の4.5%)あります。

2. 棚田の役割

(1)食料生産の場

山間地に多い棚田では、昼夜の温度差が大きいうえ、平坦地に比べて気温や水温も低く、稲がゆっくりと稔ることから、一般的に棚田のお米は味が良いと言われています。

(2)洪水防止、水源かん養の役割

斜面に降った雨は、すぐに表面を流れ、河川を通じて下流へと流れていきます。しかし、斜面に水田があることで雨水を一定量溜めることができ、初期の雨水が一気に河川に流入することを防いでいます。(洪水防止)

また、水田に溜まっている雨水は、その間にゆっくりと地下に染み込んでいき、少しずつ河川に戻ったり地下水となっていくます。(水源かん養)

(3)土砂流出防止の役割

棚田は管理されなくなると、畦が崩れたり表面に亀裂が生じたりします。ここに多量の雨が降ると、雨水が表面の土砂を削りながら流出したり、土砂くずれが発生しやすくなります。



写真4-12-1 棚田オーナーによる田植え



写真4-12-2 ボランティアによる獣害柵の補修



(4)多様な生き物を育む役割

棚田地域には、山林やため池、水路、水田、畑、集落等が混在し、この多様な環境が豊かな生態系の形成につながっています。この豊かな生態系に支えられた棚田地域の景観は、日本の原風景として多くの人の心に安らぎを与えています。

3. 棚田の現状

米価の低迷や担い手の減少・高齢化など、農業を取りまく環境はますます厳しいものとなっています。特に棚田地域はその厳しい地形条件から、10a当たりの労働時間が平坦地の水田の3倍以上に達するという報告もあります。また、山間に位置する棚田は、気象等の影響を受けやすいことに加え、野生動物による被害も受けやすいことから、単位面積あたりの収量は低い傾向にあります。このため、耕作放棄地が発生しやすくなり、周辺および下流域に悪影響を及ぼすおそれが高まっています。

4. 棚田の保全に向けて

棚田の持つ様々な機能を持続的に発揮させるため、滋賀県では、ほ場整備等による営農条件の改善、中山間地域等直接支払制度、中山間ふるさと・水と土保全推進事業(棚田基金事業)等による支援を行っています。2004(平成16)年以降、地域外住民によるボランティアを広く募集し、草刈りや畦・農道の補修、獣害防止柵の設置などの棚田保全活動を支援しています。2021(令和3)年からは棚田ボランティア登録制度「たな友」を新設し、メールマガジン等でのボランティア情報の発信、ボランティアの応募受付等を支援しています。

受け入れ地域の中には、地域通貨制度や棚田オーナー制度などの取り組みも行われており、支援の輪をさらに広げていく必要があります。



写真4-12-3 ボランティアによる草刈り